

自己評価報告書

平成 23 年 3 月 31 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2012

課題番号：20530793

研究課題名（和文）

教員志望学生による「開かれた学校」推進教員へのデザイン支援プロジェクトの研究

研究課題名（英文）

Development of a teachers support project for "Opening a school"

研究代表者

南部 正人 (NANBU MASATO)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：00218075

研究分野：美術教育

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：教師教育、美術教育、開かれた学校、鑑賞教育、地域貢献、地域連携

1. 研究計画の概要

本研究では、教員志望学生が専門の造形能力を生かして「開かれた学校」推進教員を支援し、地域活動に参加するプログラムを開発・運営する。このプログラムにより教員志望学生が、「教育的実践力（臨床的実践力・協働能力）・専攻分野における専門能力」を連携の中で実践的に高め、教員としての成員性ととともに表現者、地域住民としての成員性を獲得することを目指す。また、支援校が、美術館等の施設・他校・地域住民・保護者との連携を深めることを目指した。

2. 研究の進捗状況

(1)第一段階の基本プログラム開発では、汎用性のあるプログラムを作成した。基本プログラムにおいて、支援学生が修得する中心的技法の第一は、内省的分析である。これは造形対象に対する初発の感想を、造形対象の諸要素による影響と見なし、自分自身が造形対象のどの様に影響を受けたのかを内省的に分析する方法である。中心的技法の第二は、対話を通しての鑑賞である。内省的分析の結果や途中プロセスを、交流することで、造形対象の意義や価値を多義的に深めることが

可能であった。

(2)第二段階の個別プログラムを制作した。個別プログラム1は、地域美術館と連携を行い、中学生240名を対象に、鑑賞とアートゲームを実施した。また、個別プログラム2では、地域美術館2館と連携し、中学生に、中学校美術教員がワークショップ企画を提供する支援を行った。いずれのプログラムも、中学校美術教員が、「開かれた学校」を目指し、周辺中学校、地域美術館、大学と連携し、多様な造形経験を中学生に提供した。アンケートの結果、教員志望大学生は次回の参加を期待されるなど、中学校教員、美術館学芸員の関係者から高い評価を得た。

(3)第三段階として、プログラムの妥当性を示すための指針として以下の「地域貢献ガイドライン」を示した。

①地域貢献プログラム実施目的において、公共性を確保する必要がある。

②地域貢献プログラム実施に際して、その専門性を保証する教科内容論に加えて、児童生徒の発達、学びを保証する教科教育論を前提とする必要がある。

③地域貢献プログラム実施に際し、提供先担

当教員の専門性と市民性の統一に考慮する必要がある。

④地域貢献プログラム実施に際し、提供先教員集団内の十分な準備検討を確保する必要がある。

⑤地域貢献プログラム実施に際し、大学の教育・研究内容を開示し、提供先の教育活動がより高まるよう配慮する必要がある。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

判断の理由は、第1段階として、「一般プログラム」を作成したこと。第2段階として「個別プログラム」を作成・実施し、高い評価を受けたこと。第3段階として、「地域貢献ガイドライン」を示し、今後実施するプログラムの評価が可能となったこと。

4. 今後の研究の推進方策

地域貢献ガイドラインに沿って、プログラムを展開する。量的な拡大を図ったプログラムを、今後は整理し、質的な充実を図る。また、美術分野プログラムを基にし、音楽分野、体育分野のプログラムへと適応させる。

5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕（計2件）

(1)南部正人、「開かれた学校」を手がかりとした地域貢献ガイドラインの検討、北海道教育大学紀要 教育科学編、査読有り、第61巻第2号、2011, pp41-48

(2)南部正人、教員志望学生による「開かれた学校」推進教員に対する支援、教育大学の機能を生かした学校・地域・家庭の教育力を高める総合的な研究事業 報告書、査読無し、2009、pp246-251

〔学会発表〕（計0件）

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕
なし